

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
4	住所不定で無保険のため、受診が遅れた肺がん疑い患者	50	男	独居		借家、アパート	知人名義で借りているアパート	無職			5万円未満			無保険	国保証	未申請	無		有		2022年4月30日	外来	6ヵ月	0ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)				自治体への働きかけと結果							
	未治療	2022年5月23日		病死	無		両親やきょうだいとは疎遠。数年前に派遣の職に就くため県外からT市へ。通勤途中の怪我により、日常生活に支障はないものの仕事を続けられなくなり退職した。それにより住んでいたアパートを出なければならず、元同僚のアパートと一緒に住まわせてもらった。無職で預貯金を使って生活した。のちに元同僚はアパートを出て行き、アパートの名義は変えずに本人が一人で住み続けていた。大家には元同僚のふりをして接していた。 住民票はT市へ異動していなかった。以前、障害年金を検討したことがあり、前住所地(県外)の自治体に問い合わせたところ住民票が職権削除されていると分かり、復活させるため出向こうとしていた矢先にコロナウイルスが流行し、感染のおそれから行くのを躊躇っていた。 2022年4月30日(土)、本人より電話。2021年11月頃から空咳がみられ、2022年4月に入ってから背中への痛みが出現した。無職で収入がなく、保険証がないため我慢してきたが、ここ2週間は痛くて一睡もできなくなったため、Webで無料低額診療事業をしている当院を見つけて電話した。							4月30日初診。CTにて肺がん疑いとなる。一旦はその日のうちに高次病院へ紹介することとなったが、保険証がないため医療費の不安から紹介を拒否。痛みとがんの病名に混乱し、落ち着いて会話ができない。民生委員から大家の耳に入ってアパートを出なければならなくなるのを恐れており、「市役所には知られたくない、おごことにはしたくない」と市役所への連絡には拒否的で「全部ここで無料でやってほしい」と言われる。鎮痛緩和のため、ひとまず当院へ入院となる。5月2日、医師が改めて病状説明し、精査加療のため高次病院紹介を提案したが、無保険等あり決断できず、ゆっくり考えたいと退院した。5月7日、痛み止めの麻薬が効かないとのことで受診。背部に加え、前胸部にも耐え難い痛みが出現し、体動困難となっており、再度入院にて鎮痛緩和を行うこととなった。今後について話し合い、所持金からすぐに生活保護にはならないため、T市へ住居所設定し国保保険証を取得することとなった。痛みが緩和し、スタッフの関わりもあり、高次病院紹介を希望。5月13日に精査加療のため転院した。並行して前住所地から転出の書類を郵送で取り寄せ、5月13日にT市の転入手続きを代行した。結果的に初診日(4月30日)に遡って国保適用となった。5月23日に転院先の病院で死去した。				医療保険課と懇談をおこない、資格証明書発行による受診手遅れ死亡事例が発生したことを報告し、命を奪う資格証明書の発行中止を求めた。K市では資格証明書でも医療機関を受診した際でも医療費の一時払いが困難な場合には通常の負担割合で診療できることになっており、その対応について各医療機関に再度周知すること、資格証明書発行世帯にもその内容が伝わるように案内文書を再検討してもらうこととなった。							

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
5	資格証明書発行により受診を控え、受診時には肺癌の終末期状態であった患者	60	男	独居		借家、アパート		非正規雇用	大工請負	その他	5万円未満	無	保険料	国保資格証明書	生活保護	未申請			無		2022年7月29日	外来	8ヵ月	0ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)				自治体への働きかけと結果							
	未治療	2022年8月16日		病死	無		長年大工の仕事をして一人暮らししていた。結婚歴なく、子供なし。昨年末から食欲不振、身体のだるさがあったが、資格証明書になっており手元に保険証なかったことや、経済的な困難あり受診できず様子みていた。大工の仕事していたが体調崩し、仕事にもできなくなり、蓄えを崩して生活していた。市内に住む姉が、しばらくぶりに本人の様子みにいくとやせ細っており、身動きもとれない状況であり、医療費のこともあり、姉が市役所に生活保護の相談。生活保護担当課職員から車あることなどから生保対象にはならないと言われ、保険証をもらいに医療保険課へ回される。医療保険課の窓口で姉が保険証出してもらえないか相談するも、本人ではないから滞納金額のことなど詳細教えられないといわれた。市役所職員から無料低額診療のことを聞き、姉が本人を連れて当院を受診。受診時は自分で歩くこともままならない状況だった。診察の結果、肺癌の多発肝転移、肝不全の状態であることが判明し、即日入院となった。							受診時にMSWが介入し、MSWより生活保護担当課に連絡。入院になることお伝えし、後日姉が生保申請の手続きに市役所行くこととし、受診日からの生活保護申請を確認した。入院時から食事摂取困難の状況であり、徐々に体力低下。内服も困難な状況となり、入院19日目に死亡された。				医療保険課と懇談をおこない、資格証明書発行による受診手遅れ死亡事例が発生したことを報告し、命を奪う資格証明書の発行中止を求めた。K市では資格証明書でも医療機関を受診した際でも医療費の一時払いが困難な場合には通常の負担割合で診療できることになっており、その対応について各医療機関に再度周知すること、資格証明書発行世帯にもその内容が伝わるように案内文書を再検討してもらうこととなった。							

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
9	治療より生活の優先をせざるを得ない状況だった40代男性	40	男	独居		借家、アパート		無職		年金収入家族		有	保険料/住民税/家賃/水道料/電気代/ガス代	無保険	国保証		無	無	有	2020.9/15~2021.9/14まで利用	2020年9月15日	外来	4年	4年	治療中
	通院状況詳細	死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)				自治体への働きかけと結果							
	未治療	2022年1月19日		その他	有	失業	大学入学したが、退学。人材派遣の管理業をしていたが、法令違反で業務停止となり、他の人材派遣会社に転職。体調を悪くし、無職となったりもした。9月まで社会保険の職場に勤め、10月に交通事故し、その後アルバイト(確定申告、クレジット販売等)の仕事を行ってきた。コロナの影響でアルバイトがなくなってしまった資格は運転免許証、玉掛け、クレーン、簿記3級。 4年前に大学病院へ心不全、高血圧で入院。原因究明し、3年程度検査のため、受診していた。しかし、原因の可能性が高い動脈硬化、心臓、副腎とそれ程、異常値ではなかったため、次は腎臓の精査をする段階で中断となった。 患者さん曰く、「可能性が低い臓器を調べたところで、また医療費もかかること、仕事の休みが取れないこと、内服薬を止めても体調の悪化は自覚症状としてなかったため、放置していた。病状がはっきりしてもネットで治らない病気がもれないかと思ひ、治療に対して消極的になってしまった」と話された。しかし、「以前と同じような症状になってきたため、無低診を利用し、診察を受けたい」と来院された。 無保険だった為、SWが国保課とやりとりし、国民健康保険者証の取得が出来、治療を開始。医療費がかかる為、大学病院での検査データをもってきてもらうように伝えが残っていなかった。 一般的な血液検査等、最低必要な検査をしたところ、腎機能がかなり悪い状況だった。大学病院へ当院の医師から問い合わせをしたところ大学病院の再診を勧められた。医師やSWからは、仕事を継続しながら治療ではなく、生活保護の申請を行ない、治療に専念するように伝えられたが、本人としては、生活保護の申請は望まなかった。新しい仕事が決まっていた事もあり、生活保護の申請をしてしまうと、仕事ができない、仕事をして安定した生活をしたと考えていた。派遣会社の管理をする仕事について、拘束時間の長い仕事だった。自宅に帰れず、車中泊で食事はコンビニ弁当で済ませ、不規則な勤務状況だった。定期受診もかかりにくく、最初は1ヶ月の受診スパンが2ヵ月になり3ヶ月の受診を希望された。医師からはせめて2ヶ月で受診してほしいと話し、なんとか、対処療法ではあったが、治療は継続していた。2020年9月15日から1年間は無料低額診療事業を利用した。 1月16日、胸痛で自宅近くの病院へ救急搬送され10日分の薬を処方された。その後、安否確認がとれず、警察が自宅に入り、亡くなっている事が発見された。							無保険だった為、国保課へSWから連絡し、国民健康保険者証は1年間出してもらえた。住宅確保給付金を問い合わせを行なったが、仕事を始めた為、対象外になった。											

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
16	住民票転入手続きをしておらず国保証が発行されず、経済困難も重なり受診が遅れた死亡した直腸癌患者	60	男	独居		社宅	会社の寮 一室に2人で居住	非正規雇用		就労収入本人	5万円未満	有	保険料/住民税	無保険	無保険	未申請		有	無		2022年4月27日	救急搬送	5ヵ月	未記入	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	未受診	2022年6月18日	病死	無		A県出身、高校卒業後建築関係の職場へ就職、30代で今の職場へうつる。 20代前半A県からB県へ転居し、建築関係の仕事をしていて、30代前半で父が倒れ、母が心配になりA県に戻った。父他界後に母の状況も落ち着いたため、30代前半でC町へ転居し同業種の仕事をしていて、2004年から現在の会社に就職。会社で生活しながら基礎工事の仕事をしていて、2022年1月始めから足が腫脹し疼痛で働けず、1月と2月は1日ずつ希望で出勤するがすぐに早退するような状況だった。2月以降は収入や手持ち金もなく、会社に借金をしている状態で生活していた。一度会社社長が1万円渡した以外は寮の同居人が時々お弁当などを渡していたようだが、ほとんど食べられなかった様子。本人も「お酒ばかり飲んでいたら仕方ない」との発言あり。姉がいるが、遺産相続の件でもめたことがあり、本人が連絡を拒んでいた様子。同室に住んでいる同僚も本人に対して無関心だった様子であった。							4/27失禁、体動困難な状態で救急搬入となる。入院後の検査にて直腸癌、多発肝転移、仙骨浸潤、腹膜播種、肺転移の所見あり全身状態評価したが全身に癌細胞がまわっており手術による根治が困難であり、肝機能障害・低栄養状態で化学療法の適応もないことを説明し緩和ケアを提案。本人同意され、緩和ケア病棟へ転科となる。6/18病院看取りとなる。							4/27入院と同時に生活保護の申請を行う。決定前に逝去された場合は日常生活費の支給はできないと説明を受けていた。親族の捜索をしてもらい姉とコンタクトを取れたものの本人が面会や支援を拒絶。死後の対応は姉が支援した。5/24生活保護決定の連絡を受け、4/27-生活保護受給開始された。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
17	不正受給が発覚し生保打ち切りへ。その後医療がうけられなくなった仮放免外国人患者	50	女	夫婦のみ	日本人の内縁夫と2人暮らし。	借家、アパート	内縁夫が借りているアパートにて生活	無職		その他	10万以上	有	他	無保険	無保険	無し			無	法人内診療所にて降圧剤内服のみ1/月程度受診を継続していた。	2022年4月7日	救急搬送	6ヵ月	1ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
		2022年4月13日	病死	無		2022年1月末入管管理局S氏より当院へ「無低診で何かしら支援をお願いできないか?」という異例の電話相談があった。10数年前に脳血管疾患で入院したが、その時既に在留資格が無く、資格のあった姉の名をかたり保険証を使って受診、その後生活保護受給していた。2021年12月に別人と判明し生活保護は打ち切られた。現在は内縁関係の夫(生保受給中)と暮らしているが、乳癌の既往があり他市の病院では15割負担でないと受診継続できないと言われて困っている。本人は降圧剤だけでも出してほしいと言っている。無低額診療事業で対応できないかと相談したが、その時は、MSWから『入管で「在留許可」を出せば、社会保障制度が利用できるようになるし、収容した上で、必要な医療を受けられることはできないのか?』等提案したが、入管では、今までの経緯(身分を偽った)もあるので、簡単には在留許可を出せないと、又、仮放免がやると出せるかどうかという状況との事だった。降圧剤のみの対応で良ければと、法人内の診療所事務長に相談し、その後から診療所で無低診対応で降圧剤を1/月処方していた。2022年4月7日内縁夫から救急要請。呼吸不全状態だった。元々本人は、25年以上前に日本人男性との結婚ビザで来日した。何らかの事情でその人から逃げるように、同じく来日していた本人の姉の所に転がりこむようにし生活しはじめたのが25年前。そこから本人と姉夫妻と姉の連れ子との4人での暮らしが始まった。姉がその後すぐに蒸発した為、実質、姉の連れ子は本人が育て、3人(本人、姉元夫、連れ子)で今まで暮らしてきた。今の内縁夫は本人の姉の元夫。12年前、脳出血発症した際、保険証が無く困り果て、短期間であれば姉の保険証を使ってしまった。その後、麻痺も残り、家族3人の暮らしが立ちゆかなくなり、そのまま姉になりすまし、生活保護を申請した。2021年12月まで受給し続けていた。姉は既に3年前にフィリピンで他界。姉の子は最近まで本人を実の母と思っていた。全てを知り、現在はわだかまりができてしまっている。KPは、内縁夫で、他に頼れる親族は居ない。生保が打ち切られてからは内縁夫の1人分の生活保護費で2人が生活するような事態だった。不正受給に関する返金請求が1500万円、内縁夫にきている状況でとも病院に行くようなお金は無かった。体調不安はあったが、診療所に車椅子を押して1時間かけて通う事しかできなかった。							救急搬送され、何度も心臓細動を起こしている中で、夫が、「体調が悪くなっている、本人は迷惑をかけるから我慢をしていたのではないかと思う」と。内縁夫は、入管と掛け合い、自分と結婚ができるように手配すれば、在留許可が下りるだろうからそれまでがんばりたいと話された。しかし、その後も心臓細動を起こし、亡くなられた。医療費については、救急搬送された外国人とのことで、「外国人未払い医療費対策事業補助金交付事業」に相談する予定。この事情は居住実態のある行政が窓口となっており、居住地であった1市に相談する方針。							生活保護不正受給が発覚した際には、既に乳癌治療中であることや血圧管理が必要な医療状況にあることを行政は既に把握していたはず。救急搬送された際に窮乏した状況とMSWは判断し、生活保護を再度再開することはできないかと相談するがそれは困難な状況だった。本人が内縁夫と共に過ごしていた事実は把握されていたため、亡くなった場合の葬祭費用については、生活保護受給中である内縁夫に葬祭扶助が適用された。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
18	無保険のため、受診が遅れた子宮癌患者	50	女	その他	内縁の夫	知人宅	内縁の夫宅に居候	無職		就労収入家族	10万以上	無		無保険	無保険				有	インターネットで調べて知っていた。当院の外來受診費用は無料低額診療事業適用。	2022年4月9日	外來	1ヵ月	未記入	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	どこも受診していなかった。	2022年4月30日	病死	無		A県出身。高校卒業後就職。結婚歴あるが、20年前に離婚。その時に、相手に転居先を知られたくなかったため、市役所に届けを出していなかった。しばらくして届け出をしようと思ったが、住民票が削除されており身分証も捨ててしまったため届け出を断念。その後は、仕事が出来ず知人宅などを転々としていた。8年ほど前から内縁の夫と同居。内縁の夫がB県に転居するに伴い、一緒にB県に来た。旧姓の年金手帳のみ所持。A県に母、海外に弟がいる。							2022年4月9日、1ヶ月ほど前からの腹痛、嘔吐、食欲不振、体重減少を主訴に当日直来して受診。同日にMSW介入し、無料低額診療事業での受診とした。内服薬処方し2週間後に再受診の予定で帰宅したが、4月12日に再度腹痛を主訴に受診。腹部造影CTで子宮頸がん疑い、腹膜播種疑い、糖尿病の診断。高次医療機関で精査をするため市役所に連絡し生活保護申請を相談するも、内縁の夫の収入があるため該当せず。住民票や身分証明書が無いが、国民健康保険への加入ができるか国民健康保険課に相談することが唯一の手段とのことだった。無保険だが受診が可能か大病院に相談し、ひとまず自費で受診し、支払いの相談は可能と言われた大病院へ紹介した。大病院に4月19日入院した。 以下、大病院のSWより聞き取った内容。 子宮体癌の診断で手術の話も出たが、全身状態が悪く手術できず、緩和ケア方針となり自宅退院することになった。退院調整を進めている際にA県に住む母親に連絡が付き、母親に住民票の手続きをしてもらったところ、実は元々の住民票は抹消されておらず、保険証も発行できるということが分かった。そのため、転居届を出し、4月18日から遡って国民健康保険加入となった。訪問診療の調整をし、4月28日に内縁の夫宅へ退院、4月30日逝去。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
19	「患者が失業し、生活困窮のため保険料が払えず資格者証の状態で、受診が遅れ死亡にいたった患者」	50	男	夫婦と子ども世帯(子が18歳以上)		借家、アパート		無職		就労収入家族	10万以上	無	保険料	国保資格証明書	国保資格証明書				無		2023年8月4日	救急搬送	不明	未記入	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	通院なし	2022年8月5日	病死	無		<p>◆生活状況 妻・長男(精神障害あり)・次男・長女と5人暮らし。 本人は1~2か月前から外出困難な状況だった。入院する2日前まで7#コーレを飲んでた。 ◆経済状況について 本人は3月まで左官の仕事をしていたが、休む日がありそれを理由に職を失った。仕事をしている時は月20万円くらい収入はあったが、生活は苦しく、国民健康保険料は2~3年未払いとなっていた。長男は精神障害があるが、医療費支払いが困難なため通院できていない。本人が職を失ってからは、長女にお金を借りて生活していた。長女は派遣の仕事で月15万円の収入あり、貯蓄は120万円ほど。 妻の実家は他県にあり、お金を借りる相談したが難しいと言われた。妻から本人へ生活保護申請を提案したこともあったが、拒否あり申請していない。</p>							8/4夜間に救急搬送され、肝硬変、腹水、肝性脳症、急性肝不全により救命困難な状況で入院となった。 家族より医療費不安の訴えあり、MSWが家族と面談。役所へ状況説明し、短期証発行を依頼。死亡直前に病院職員にて短期証申請実施。同日死亡退院となった。医療費と葬儀代は長女が支払うことになった。							短期証の交付の依頼し、発行してもらえた。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況	
23	アルコール多飲、生活困窮により地域包括支援センター介入、受診控えのため入院時には病状末期であった事例。	60	男	独居	父死亡、母施設入所中。弟との関係は断絶。支援者の知人女性あり。	持ち家	入院前は体動困難によりごみ屋敷状態	無職	過去職歴あるが詳細不明。	その他	5万円未満		保険料	無保険	無保険	未申請				無		2022年12月13日	救急搬送、なんでも相談	不明	1ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果						
	10年以上前心疾患で他院通院歴あり。	2022年12月24日	病死	無		<p>家族構成：父(死亡)母(施設入所中)兄弟(他県在住、関係断絶) 県内高校卒業。国立大学中退。歴史を学ぶ。仕事をしてきたことはあったが入院時付き添いの保健師情報では3年前には既に無職。 3年前に本人より市へ食べ物などに困っていると電話あり、地域包括支援センターの保健師が4、5か月に1回程度フードバンクより食べ物をもって訪問していた。 時期は不明だが親に対する暴力で地域包括支援センター介入、その後施設入所、同時期に親族との関係断絶している。 知人に連絡して必要物品(下着や服など)を送ってもらっていた。 自宅はゴミだらけで足の踏み場がない状態。 近所付き合いなし。 地域包括支援センター保健師訪問時は常に酒に酔った状態。飲酒量は数リットル単位。保健師は当院の治療が落ち着けばアルコール依存の治療のできる病院への転院希望あり。</p>							入院当日保健師訪問時体動困難、息切れあり、いつもと様子が違うとのことで救急搬送。無保険であることから入院拒否があったが、医師の説得により入院。入院時より肺炎のため多量の酸素を必要とした。 入院後の精査で肺癌見つかる。すでに転移がみられステージIV相当。胸腺癌術実施したが酸素化改善見られず。 本人も積極的治療望まず。 入院時より急速に肺炎の悪化あり、12月24日死亡退院。 (入院中病棟より絶縁していた親族へ連絡、キーパーソン引き受けてくれている。)							国民健康保険3年程度滞納あり、払う意思はありとのことでMSWより代行申請。特別事情の申請により入院日に遡って国保、限度額適用された。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
24	無保険状態で受診が遅れ、腎不全で死亡された事例	60	男	独居		持ち家		無職		その他		有	保険料/住民税/他	無保険	無保険	非該当			無		2021年11月5日	救急搬送	1ヵ月	未記入	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	30歳のころ糖尿病指摘され服薬治療していたが5年くらい前に中断していた。	2022年4月8日	病死	無		<p>【生育歴】 ・県外で生まれ育つ。母と兄弟は地元在住。10年以上前から帰っていない。 ・高校卒業後、親元を離れて香川県へ。 ・パチンコ店で働く(24年間)。店長にまでなっていた。 ・自身でワンルームマンションを購入。 ・3年前に仕事を退職(原因不明)。その後は、預貯金で生活していた模様。 ・徐々に生活困窮になったのか自動車税の督促状などもポストに大量にあり。一時期から各種手続きを全くしなくなっていた模様。 ・入院時本人は「入院1か月前から立ち上がりが困難になっていた。入院の2、3日前には動けなくなり、こんにやくゼリーで飢えをしのいでいた。」と言っていた。 ・2021年11月5日に自宅前で倒れているのを管理人が見つけた救急搬送 ・退職後は社会参加の形跡は見られず。 ・30歳のころ糖尿病指摘され服薬治療していたが5年くらい前に中断していた。</p>							<p>・2021年11月5日脳梗塞、心不全、腎不全で入院され、左片麻痺が残った。 ・2021年12月17日に回復期リハビリ病院に転院したが12月27日に全身性の浮腫増大、心不全の増悪みられ12月29日に当院へ再入院。 ・全身性浮腫、多量胸水、重度腎不全の状態が続く。 ・右および左中大脳動脈の脳梗塞も起こり、遷延性の意識障害になる。 ・経口リハビリは進まずPEG造設。3月はじめより全身性の浮腫が進行し胸水、腹水貯留。 ・肺炎による呼吸不全が増悪し4月6日死亡された。</p>							退職から保険手続きを行なっていないため、国保手続きをMSWにておこなう。限度額証も発行される。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
25	ホームレスで治療中断し、状態が悪化した進行乳がん患者	60	女	その他	長女がいるようだが絶縁状態。その他不明。	その他	ホームレス	無職						無保険	無保険				有		2022年7月25日	その他	3年	不明	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
		2022年9月21日	病死	無		A市職員が通勤中に、本人から電話を貸してほしいと声をかけられたことがきっかけで、ホームレスで乳がんを治療せずに放置している状態の方がいると福祉課へ相談し受診につながる。 近隣の情報によると、「スーパーのベンチで座っているのを最近よく見かける。スーパーが閉店したら辺りをブラブラしている様子」とのことだった。 市職員が医療機関を受診をすすめるも本人は拒否され、所持金250円だった為、フードバンクの説明をすると興味をしめされた様。後日、本人より包括に連絡があり、フードバンクを利用したいが、そこまで歩いていけないので迎えに来てほしいとのことだった。迎えにいくと、水分は摂れているが食欲なく食事が摂取できておらず、歩行状態も不安定だったと。 腕や胸部の腫れ潰瘍がひどく、当診療所へ相談の連絡が入る。	A市福祉事務所職員の付添で受診される。 3年前に乳がんを発症し他院を受診。医師より手術を進められるも、当時職場が変わったばかりだった為拒否。 薬で対応し時期をみて手術の予定だったが通院を中断。同時期に長女と居住していたが、絶縁しホームレス生活になった様。 当診療所で診療を行い、乳癌末期状態の診断。市で生活保護の申請をすることと、B市にある他院の緩和ケア病棟を紹介し入院となる。その後、他院で生活保護の申請を本人が拒否され、医療の拒否もあり、自己都合で退院されたと情報あり。別の医療機関で2022年9月21日に永眠されたとのことだった。	後日わかったことが、年金を受給されており知人が管理していたとのこと。 入院した医療機関がB市だった為、A市はその後、B市へ委ねる。 A市へ知人の問合せをするも個人情報なので話すことができない、その後のことはわからないB市が対応していると言われる。 B市へ連絡し生活保護の対象ではなかった為、国保の取得をされているとのことだった。知人についてはやはり個人情報の為教えてはもらえず。																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
28	無保険、来院数時間で亡くなった男性	60	男	独居		借家、アパート		その他	不明	その他				無保険	無保険						2022年10月22日	救急搬送	未記入	未記入	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	通院なし	2022年10月22日	病死			・離婚歴あり。子どもふたり(長男、長女)。元妻は再婚している。 ・本人は一人暮らし。	・土曜午後に救急搬送され、約5時間後に亡くなった方。搬送直後は意識ありERスタッフとの会話可能だったが、その後状態悪化。意識がある時に、ERにて息子の連絡先を確認でき、担当医より電話にて病状説明。息子は大学院生で来院困難、関わりについては母親(元妻)と相談する、との返事だった。 ・週あけ月曜にMSW介入、息子へ連絡し状況確認。中学生頃に両親離婚し、子どもたちは母側へ。半年くらいまえに電話で話したのが最後で、その時に「お金に困っている」と話していたとのことだが、詳細な生活状況はわからず。母親と相談したが、葬祭対応はできないため行政に相談してほしい、とのことだった。 ・担当区へMSWを状況はなして病院より連絡し、ひとまずご遺体の引き取り、火葬対応をしていただくこととなった。その他は、担当区が家族と相談していくこととなった。	・担当区へご遺体の引き取り、火葬対応について相談→担当区にて対応するとの返答。																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
29	保険無し、経済的に困窮し、受診が遅れたがん患者	60	男	独居		借家、アパート	賃貸アパート	非正規雇用	日雇い労働 解体作業など	就労収入本人	10万以上	有	保険料	無保険	生活保護	未申請	無	無	無		2022年12月14日	他事業所からの紹介・転院	10ヵ月	1ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	通院なし	2022年12月16日	病死	無		妻とは離婚後で、子ども2人いるが、妻子とも音信不通の状態であった。連絡先も分からず。趣味で知り合ったバイク屋の店長と交流はあったが、キーパーソンにはなりえず。その他社会的つながりはなかった。賃貸アパート在住、日雇い労働で解体作業などに従事していた。 これまではかかりつけなく、受診歴もなかった。 2022年1月頃より体調に違和感を感じ、酒が飲めなくなり、飲酒できなくなった。8月頃より下肢浮腫、呼吸困難が出現。仕事が出来なくなり、生活保護の相談に行かれたが、受付されなかった(詳細不明)。11/21より全身倦怠感が増強し、体動が困難になった。11/23 救急要請し、A病院に入院。副腎がんの診断。この入院時において、無保険及び医療費支払い困難にて、生活保護申請された。その後、治療目的で同11/23にB病院に転院された。しかし詳細に検査をおこなったところ、無気肺や腹水貯留など様々な症状見られ、病状進行により治療困難と判断され、BSC(Best Supportive Care)方針となった。 緩和ケア目的にて12/14当院に転院となった。	当院転院後より疼痛の増強や倦怠感の悪化により、会話も困難な状態であった。その後も意識レベルが低下が続いた。12/15に生活保護が決定し、同日保護課担当者が面接のため来院された。尚、会話は困難であった。 翌12/16に永眠された。 バイク屋の店長に関しては、連絡先にはなっていたが、キーパーソンではなく、特に入院中の関わりもなかった。	特になし																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
30	無収入、無保険で受診が遅れた住民票の無い肺がん患者	60	男	夫婦のみ	内縁の妻と同居。	知人宅	10年前に内縁の妻よりネットで知り合い、同居開始した。	無職		その他	5万円未満	無	保険料/住民税	無保険	無保険	非該当	無	有	有	無保険の為、2021/12/15受診分1日分のみ無料診療。	2021年12月15日	外来	5ヵ月	4ヵ月	その他
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
	無保険の為、来札後は受診歴無し。	2022年3月28日	病死	無		A県で出生し、両親、妹と4人で生活していた。母とは血が繋がっておらず、何かあれば殴られたり罵倒される幼少期を過ごした。B県内の中学校卒業と同時に家を出て建設業へ就職。職業を転々とされていた。籍を入れていなかったが内縁の妻と長女もいたが、長女と2018年に喧嘩別れし、連絡先不明となった。B県から10年ほど前に仕事を探す目的で知人を頼りC市へ。その頃より右鼠径ヘルニアはあったが、保険証が無いため受診してなかった。知人女性と同居していたが、仕事はみつからず段々と体調が悪化。2021年7月末より痛み鼠径ヘルニアの痛みが徐々に増大。食欲低下も出現し、ほぼ毎日痛み止めを内服していた。2021年12月14日、無保険のためみてくれるところがないかネット検索をし、当院へ電話相談。12月15日、受診した結果、右肺胸水貯留、肺内に多発結節影あり。未治療であれば予後3-6ヶ月との告知を受け、12月16日入院し生活保護申請し、抗がん剤治療をする方針となった。	12月15日の外来受診は無料低額診療の無料診療を利用。12月16日から当院へ入院し、当院を住所に生活保護を通報申請。抗がん剤投与後に住まいを探す事となったが、2022年1月19日、病院近くの救護施設より受け入れを断られた為、地域のアパートで生活出来るよう調整する事になった。住民票がない為、1月20日、B県C市役所へ戸籍謄本・附票の取り寄せを郵送にて依頼。ホテル宿泊による1泊2日の退院は保護課より認められず、リセット目的の退院方法を模索していた中、1月24日隣室でCOVID-19陽性者発生。本人も罹患され、専門病棟へ転科。1月26日、戸籍謄本が届いた。その際、本人から伝えられていた生まれた年が10年異なっていた事が判明した。1月29日、本人がCOVID-19罹患し専門病棟へ転科。2月1日、電話で本人の意思表示などを確認し、区役所にて病院を住所地にして住民票を取得。2月17日、他院へ1泊2日転院。内縁妻へ本人の新しい住まいを探してもらう事となったが、本人の病態が悪化。右上葉閉塞性肺炎、左間質性肺炎を発症し、2月25日よりHFNC開始。3月4日よりステロイドパルス療法開始。3月22日よりオビオイド開始。治療が功を奏せず、3月24日本人へ主治医からIC。本人は内縁妻との面会を希望されず、妻は本人の意思を尊重したいとの事。3月25日、本人希望で内縁妻との面会も無いまま挿管開始。挿管後、内縁妻へDNAR確認された。3月28日本人逝去。保護課より遺骨の引き取りの許可を得、内縁妻が葬儀後遺骨の引き取りをした。生前、本人から戸籍謄本の写しをもらい、本人妹へ連絡して良いと許可を得ていた為、妻から本人妹へ手紙を送付されたとのこと。5月16日、主治医、病棟看護師、リハビリ担当者、HCU看護師、SW同席しデスカンファレンス実施。	特になし																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
32	認知症、身寄りなし、セルフケア・通院困難・経済的困難のため受診が遅れた膀胱がん患者	90	女	独居	戦争で母とA県に疎開。母を看取り以後独居。父は戦死。婚姻歴子ども無し。	借家、アパート	戸建ての借家。知人が保証人になっていた。	年金受給者	会計事務所などに勤める傍ら茶道や華道を教えていた。	年金収入本人	10万以上	有	家賃/水道料/電気代/ガス代	後期高齢者短期保険証	後期高齢者短期保険証	要介護2	有	無	有	ケアマネより利用について相談を受け申請した。	2022年6月26日	他事業所からの紹介・転院	不明	1ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
		2022年7月31日	病死	無		戦争でA県に母と疎開。父は戦死。戦後は母と生活。母を看取り以後独居。婚姻歴子ども無し。会計事務所勤める傍ら、華道、茶道を教えていた。脳梗塞、乳癌手術の既往あり。年金はあるものの、預貯金はなく、家賃を除く約6万円で生活していた。入院される約2年ほど前から足腰が弱り、外出ができなくなっていた。華道、茶道の弟子たちが買物、通院などの支援をしてきた。銀行もその友人に頼み家賃などの支払いをしていた。人頼みをするごとに謝礼を支払うため、家賃、光熱水費の支払いが滞るようになっていった。立ち退きを要求され、友人が連帯保証人となり、借家にとどまることができた。徐々に認知症が進行し、被害妄想が出現するようになり、支援者が減っていった。一人見捨てずに支援していた友人(弟子)が年に1度だけ本人を連れて受診させ、あとは薬を友人が取りにっていたが内服はきちんと行えていなかった。その友人が食糧を差し入れていた。ホームヘルパーを利用するようになったが(週3回)、支払い困難なため、利用回数を増やせずにいた。携帯代滞納で利用停止となり連絡手段がなくなり、頼りにしている知人に連絡できなくなったことで精神的に不安定になっていた。1日1食か全く食べない日もあり、認知症が進行していった。2022年1月に隣人がケアマネより、生活管理が困難で受診が中断しており、移送手段と経済的な問題で通院困難なため、訪問診療と無低診利用ができないかと相談を受けたが、本人に病識なく、なかなか利用につながらなかった。	配食サービス業者が訪問すると、酷暑の中エアコンの操作を間違え暖房になっていたりしており、全裸で尿便失禁状態のため、ケアマネージャーに報告。ケアマネが訪問し、当院へ救急搬送された。入院当初より、貧血、血尿、食思不振が続いた。膀胱癌疑い。ご本人に判断力ないため、入院後、ケアマネ、知人(華道の弟子)が来院くださり、臨床倫理の四分制法でどこまでの治療を行うかカンファレンスを実施。入院1か月後に逝去。死後、弟子たちが火葬に立ち会い、お見送りすることができた。	墓地埋葬法により、死後の対応を行政に依頼した。																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況	
33	体動困難から褥瘡が出来ていた、同居の娘が本人連れ受診に来る事が困難だった為、娘の代理受診のみとなっており、救急搬送で来院した際、かなり深い褥瘡となっていた患者	80	女	一人親世帯(子が18歳以上)		持ち家		その他	本人は無職、同居娘はパート掛け持ち。	年金収入本人	10万以上	有	他	後期高齢者短期保険証	後期高齢者短期保険証	未申請				有		2005年	救急搬送	未記入	未記入	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果						
		2022年5月25日	病死	無		2005年以前より内科に受診。長年診療所に受診していた経過あり。長女が幼小の頃に夫と離婚、親子2人生活であった。本人が若い頃は芸者等しながら家庭を支えてきたと、長女より聴取。高齢となり仕事困難となつてからは、本人は年金のみの収入。長女が家庭を支える為に、10年来Wワークしながら就労継続してきた経過あり。2020年6月頃より、精神科には長女のみ代診として通院していたが、徐々に認知機能の低下、褥瘡の悪化により入院勧められており、緊急搬送となった。救急搬送直前の様子では、1~2週間前から食事・水分量が減り、あまり動けなくなっていた。両側の腸骨の褥瘡も悪化。長女が連日処置しているとの事だが、Wワークの為、本人に関われる時間が少ない。医師より褥瘡感染となると、命に関わる事説明され、入院の必要性について話されるが、入院させるお金がないと長女より聞かれた。2022年4/20~5/25まで入院。元々DM、食道裂孔ヘルニアにて診療所内科、腰痛にて整形外科に通院していたが、歩行困難になってから通院中断。自宅は築50年近く、老朽化しており、水道の漏水もあるが修繕費の工面が困難でそのままになっている。病前の経済状況は、本人の年金 2ヶ月5万円。長女はWワーク、職場は、コンビニ食品の製造工場 月12-16万円の収入。社会保険加入。もう1カ所はスーパーの鮮魚売り場。そちらの収入は、月2-5万円。本人の年金+長女の就労収入で生活しており、額面上収入があるが、カードローンや銀行ローンの借入あり、月20万円程返済となっている。借入先は10社以上、総額300万円程あり。また上記とは別に長女が仕事に使用している車が故障し、新たな車に買い替えされており、そちらのローンも200万円程あり。	入院時の採血検査にて、炎症反応の上昇あり。尿路感染、褥瘡感染にて治療開始となる。食欲不振検査では器質的な問題はなし。入院後、食事摂取は経口にて摂取できているが、安定しない。食べムラあり、補液点滴の継続、必要に応じて経管栄養も検討されていた。経管栄養トライするも、食道裂孔ヘルニアにて鼻腔入らず、5/17~中心静脈栄養となっていた。5/25敗血症性ショックにて逝去。逝去、1~2週間前から経口摂取はほぼできておらず、発熱の経過もあり。褥瘡、尿路感染を背景とした感染症の再燃と考えられると医師より説明される。	介護保険申請に伴い、該当地区の包括支援センターに相談。介護保険申請は行い、長女の多重債務についても介入。消費生活センターに繋がり、弁護士に相談していく事となった。																		

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
35	資格者証、多額な保険料の請求のため受診が遅れた大腸癌患者	70	女	夫婦のみ		借家、アパート		無職		就労収入家族	5万以上10万未満	無	保険料/住民税	国保短期保険証	生活保護	申請中に死亡	無	無	有	低額10割	2022年10月28日	外来	1年	2ヵ月	中断
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
		2022年12月22日	病死	無	その他	中学校卒業後に製糸工場で働く。その後退職しA県でアルバイトをしていた。30代で夫と結婚し生活していたが、夫の仕事の独立を機に夫の地元であるB県に移住。専業主婦しながら時々夫の手伝いをしていた。夫が退職後は夫のアルバイト収入を主に生活していた。10年前から国保は資格者証。市役所に相談していたが、市役所職員の困っている顔を見て、相手を困らせてはいけないと考えて相談は中断。2022年4月に差し押さえ通知書が届き保険料を支払い始める。2022年9月に月に30000円の保険料を納める約束をし、2週間の短期保険証を取得した。2022年10月にコロナの給付金の相談のため夫が市役所に行ったところ無低診のことを聞いた。本人が食欲不振、嘔吐を繰り返している状態であったため、当院SWに夫が電話した。本人、夫ともに同日に受診。検査して帰宅したが、その後、腫瘍マーカーが異常値であることが判明。3日後に心配したSWが夫に電話し状態が変わらないとのことで再度受診いただき入院となった。本人は高血圧があったが、資格者証となった10年前に他院中断した。	入院後に夫がすぐに生活保護申請を行い、2022.11.1から生活保護となった。それ以前の医療費は無低診決定となった。本人は自宅に退院希望があり、介護保険の申請を行い、自宅退院予定であったが、退院する週の前の週に死亡した。	SWが働きかけは行えなかったが、本人、夫が資格者証の時期に国保課、収税課に保険証の発行をお願いしたことはあった。しかし、「保険料を払って下さいとしか言えないです」と言われたとのことだった。																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
36	国保料滞納、年金差し押さえ、年金担保で借金により年金が医療費に充てられず受診が遅れ、虫垂炎発見が遅れた	70	男	独居	子どもいるが縁を切っている	借家、アパート	お金を借りている知人と同じアパート	非正規雇用	お金を借りている知人からの依頼の仕事をしていた。(人夫派遣業の請け負い)	就労収入本人		有	保険料/住民税	国保短期保険証	生活保護	要介護3	無	有	無		2021年11月21日	救急搬送	不明	8ヵ月	治療中
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体への働きかけと結果					
		2022年10月4日	病死	無		若いころは船乗りとして世界中いろんなところで仕事をしてた。給料もよく仕事と仕事の間は、稼いだお金を使い、外国の街で遊ぶこともできた。その後の生活は不明だが、お酒やタバコ、私生活も派手だったらしい。船乗りした後、経済的困窮に陥ったあたりからと思われるが、人夫派遣業をしているTさんと知り合いになり、お金を借りるようになった。お金を借りても返さないで年金が入る通帳を管理されるようになり、年金があるにも関わらず自由に使えるお金は数万円となっていた。保険料や税金の未払いが増えた。家賃の取り立てもTさんが行い、払えない時はTさんが立替え利子をつけて徴収していた。どうとう年金の差し押さえにあい、返済もしないといけないので、さらに経済的困窮に陥る。それでも返済し終わったところに、Tさんの入れ知恵と思われるが、年金担保にお金を借りさせ、収入が少ないと生活保護を申請している。年金担保で借りたお金も保護費もT氏が管理していた	受診した時は、肺癌が進行しており、すでに手遅れだった。抗がん剤の効果もなく亡くなった。実際には入院後生活保護を申請。通帳もT氏より取戻し病院で管理した	生活保護を申請した。亡くなられた後の全ての支払いを担当ソーシャルワーカーが行った。																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
38	無保険で所持金なく、受診が出来ず、病状が進行してしまったS状結腸癌の患者	60	男	独居		ネットカフェ		非正規雇用		就労収入本人				無保険	無保険	未申請			無	所持金、収入がないため生保が妥当。	2021年8月25日	外来	1ヵ月	6ヵ月	その他
	通院状況詳細		死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体への働きかけと結果					
	未受診	2022年2月11日		病死	無		家族歴：両親(他界)、弟(生存、30年位不通) 生育歴・職歴：19歳～45歳まで会社勤務。上司と上手く行かず退職。アパートも退去。住み込み寮で警備会社就職。半年後、人間関係で退職。一時期、公園で生活。牧師さんが世話してくれて、住み込みで再就職したが、退職。住所確保のため友人と家を借りて住所登録した。友人とA県で漁船の仕事開始。給料問題で退職。B県に戻り、公園で生活。2015年、生活福祉課に相談。受給できず、梱包会社でアルバイトを始める。2021年7月中旬まで勤務。2015年以降、アルバイト収入が得られるようになったためネットカフェで生活。	2021年7月中旬頃、体調不良。8月下旬、当院前で体動困難。外来で診察し、一般病棟入院。無保険、所持金少額の為、生活保護申請し受給開始。入院直後にPCR検査陽性でCOVID-19と診断。下血あり。COVID-19隔離解除後、他院で精査。S状結腸癌と診断。本人に告知。治療の意思確認を行うが積極的な治療はしないと本人が決定。癌末期と診断され、入棟条件を満たしたため、地域包括ケア病棟から緩和ケア病棟に転棟。癌末期で入所できる施設に相談中に院内で看取り。						特になし											

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
39	無職となり知人宅で居候、肝硬変末期で受診が遅れた60代男性	60	男	その他	知人と同居(居候)	知人宅		無職		その他	5万円未満	無	他	無保険	無保険	未申請	無	無	無		2022年3月30日	他事業所からの紹介・転院、救急搬送	不明	未記入	その他
	通院状況詳細		死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体への働きかけと結果					
	未受診	2022年4月12日		病死	無		中学卒、家族歴・生育歴は不明であるが脆弱な家族背景であったことが想定された。約40年前に転居し主に建設関係に従事していた。30代で結婚し妻は3年前に他界。40代の長女・30代に次女がいるがまったく音信不通であった。妻の他界以降は一人暮らし、一昨年より腰痛を発症し昨年からは仕事につけない状態となり失職してしまつたことである。以降は無収入となり知人宅へ居候していた。この知人も要介護状態であり認知症症状が著明となったため知人の身の回りの世話をしていたことであった。なお建設関係で働いていた時の土健健診ですでに肝機能障害を指摘されていたことであった。今回はこの知人の方を担当するケアマネジャーから「利用者の同居している方が腹部膨満で苦しくて動けなくなっている」と当院附属診療所へ連絡があった。診療所から臨時往診したところ著明な腹水貯留を認め、呼吸困難、酸素飽和度が著明に低値であったことから当院へ救急搬送となり入院となり肝硬変の末期と診断された。すでに困窮が明らかであったため早速医療ソーシャルワーカーが面接、ここ一年は就労できずに無収入、失職後に国保加入の手続きもできず定まった居住もなく医療機関への受診を控えていたことであった。ここ最近では友人からお金を借りていたことであり入院時の所持金は5,783円であった。そして医療保険も資格喪失しており本人の同意のもと直ちに生活保護の申請を行った。入院後は徐々に全身状態が安定し食事摂取が開始されたことから退院後の生活について生活保護の担当ケースワーカーと相談を始めた。その矢先の4月12日呼吸抑制、意識レベルの低下が出現し残念ながら死亡確認となった。	就労(-)所持金が5783円、公的医療保険資格喪失と困窮が明らかであったことから本人の同意のもと直ちに生活保護の申請を実施。当該自治体の保護担当は迅速に対応いただき入院時から生活保護が開始された。																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
41	無保険状態で医療費支払いも不安だったため受診が遅れた	50	女	独居	母は入所中	持ち家	亡き父親名義の自宅	非正規雇用	ホームセンターのパート職員	就労収入本人、年金収入家族	5万以上10万未満	有	保険料/住民税/水道料	無保険	無保険	非該当			無		2022年4月13日	外来	不明	1ヵ月	その他
	通院状況詳細		死亡日		死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体への働きかけと結果					
	未受診	2022年4月29日		病死	有	就労収入の減少	10代ころからアトピー性皮膚炎や偏頭痛で悩まされてきた。独居。4年前に父は死去。母は老健入所。姉は結婚して県外で居住。鉄工所をやっていた父が亡くなり、税金や保険料、親戚への借金が多額にあったことが判明。取引先にも借金があった。就労は7年前から現在のホームセンターで働いている。週に5回、4時間程度。月に手取り8万ほど。母の年金は6万で入所費用をまかないきれず、本人の収入から少しずつ出していた。生活費が足りないとカード払いとしており、総支払額が40万ほどになっていた。コロナ感染でシフトが減り、コロナ貸し付けを一度利用(20万)税金などの滞納は200万を超える。体調は悪かったが、保険もなく医療費の支払うめどもないので我慢していた。	生活相談会に来てくれたため、無料低額診療も説明、受診となった。心臓の異常を指摘されたため、精密検査を受ける必要が出てきた。当院では対応できないため、総合病院にかかる必要が生じ、国保44条申請と一緒に役場に向いた。滞納はあったが受理。不足の書類があり、それを準備することとなった。本人もその日のうちに遠方の兄弟に連絡し「生協の人たちがよくしてくれて、保険証もあるし、医療費もかからなくてすむって。ちゃんと病気直して元気になるね」と言っていた。翌日の総合病院での検査に姿を現さず。自宅に訪問したが、車はあったが応答なし。翌日親戚が警察とカギを壊して入ったところ、既に亡くなっていた。検視となってしまった。もう少しだけ早く治療を開始することができれば、こんな結末にならずにすんだ。						無保険状態が長すぎて、本人が受診をあきらめていた。税金の滞納が多額にあり、役場へ行くことには戸惑いがあった。											

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前	受診・入院時	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	介護保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
42	居住地の登録をせずに、受診していた腎細胞がんの患者	70	男	夫婦と子ども世帯(子が18歳以上)	夫婦ではなく、元妻、息子と同居(居候)	借家、アパート		無職		就労収入家族				無保険	無保険		無	無	有	医療費一部負担分全額免除	2021年9月13日	他事業所からの紹介・転院	不明	5年	治療中
	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)					自治体への働きかけと結果							
		2022年3月15日	病死			2021年7月30日以前当院に勤務していたA医師より、相談。A医師の外来に2016年頃より受診している。採血で貧血があり、精査進めるも金銭的問題で精査拒否。入院を進めるが、本人拒否し、家族に説得してもらい輸血のみ行ったが、根本的に解決できないとのことで、当院での無低診を利用し、入院精査ができないか相談あり。医師に確認し受け入れを行う。入院時経過を確認すると、30年ほど前に他県より転居してきた。28年前に離婚しているが、同居している。事情により、本人の転居届は出さず、周囲にも本人と同居していることは隠していた。そのため、無保険、無収入で、受診時は、家族が、全額自己負担で受診をしていた。ADLも低下してきており、今後の生活や医療費の工面などの支援はできないため、本人には別に生活をしてほしいと家族は希望される。①住民票がないため制度活用ができない②今まで家族が支援してきたが、これ以上の支援はできない③無保険のため、医療費が全額負担となることが課題となり、無料低額診療を申請しつつ、制度活用、調整を行う。本人、元妻とMSWが面談を重ね、生保申請等手続きの提案を行うが、本人が同居していることが公になることを恐れ、手続きが進まなかったり、住所がないため生保申請をどこが行うかなどいろいろと難航するが最終的に本人のみ生活保護が適応される。腎細胞がんの治療にも本人の希望があり、当院での精査終了となり、A医師の勤務先病院へ転院する。転院後は治療拒否があり、居住を探し、退院希望があったが、症状もあり、そのまま入院し、2022年3月永眠されたと転院先の病院より連絡があった。							本来、元妻、息子との同居をしている実態があり、生保は難しいと断られたが、MSWが粘り強く、行政に働きかけ対応を依頼し、生保申請ができた												